

10月のピックアップ

『インド文学～古典から現代へ』

ハリー・ポッターの物語を本や映画でご存知の方も多いでしょう。呪文を正しく発音できなかったハリーが目的地と異なる暖炉から飛び出したり、長母音が短母音かの違いでロンの羽根ペンがうまく舞い上がらなかったり、そんな場面を覚えていますか。それくらいの違いなら分かってくれてもよさそうなのに、まるでコンピュータのコマンドのように、一字でも間違えたら思い通りに物事を操作できません。かつての古代インドでは、神々を讃える詩人たちや、儀式を行なう祭官たちは、誤りのない言葉を発するために、一字一句、大切に言葉を用いていました。正しく発せられた言葉は、そのとおりに実現する力をもつと考えられていたからです。神々とのやりとりにおいて、適切な処理をするためにコマンド（＝言葉）を間違えるわけにはいきませんでした。インド文学は、まさにこのような、「正しく発せられた言葉」を伝えているとされているヴェーダから始まるのです。

もちろんインド文学は難しい内容のものばかりではありません。サンスクリットで書かれた、こんな物語があります。ある優れた男が才色兼備の姫を娶りますが、彼の幸せをそねむ者たちの悪意によって妻と離散させられ、姿も醜く変えられてしまいます。一人残された姫は数々のピンチをその才気で切りぬけ……。美しいうえにくじけない、気丈なヒロインの活躍でハッピーエンドに終わるこの筋書き、実はダマヤンティー姫が登場する『ナラ王物語』のものなのですが、ヒロインを照手姫に置き換えると『小栗判官』の物語にも思えてきます。

サンスクリットから現代のヒンディー、ベンガル、タミル、英語 etc. にいたる言語、祭式文献から叙事詩、恋愛物語、戯曲、法典、そして社会問題を扱う近代小説までのジャンル。インド文学には、多様なものを飲み込み包括していくインドが凝縮されているようです。ぜひこの機会に、まだ見ぬインド世界に触れられてはいかがでしょうか。

情報サービス課 照井 菜穂子

今回ご紹介するのは、国立情報学研究所が提供する「GeNii(ジーニ)学術コンテンツ・ポータル(以下GeNii)」です。国立情報学研究所は国内外の文献情報・研究課題情報など膨大な情報を様々なサービスを通して提供しています。この「GeNii」は同研究所が提供する4つのデータベースをまとめて検索できるデータベースです。

「CiNii(サイニ)Nii論文情報ナビゲータ」では日本語の学術論文を中心とした論文情報を提供しており引用情報・抄録や論文本文を検索することができます。

「Webcat Plus」では図書の目録所在情報データベースを基にした図書・雑誌の書誌・所在図書館情報を検索できる「Webcat」の検索機能・性能を強化したデータベースで「連想検索機能」を搭載しており、効率的に図書情報を検索することができます。

「GeNii(ジーニ)学術コンテンツ・ポータル」

ご存じですか？

「KAKEN 科学研究費補助金データベース」は文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費によって行われた研究データや研究成果の概要を検索することができるデータベースです。そして「学術研究データベース・リポジトリ」では国内の学会、研究者、図書館等が作成している様々なデータベースを検索できるデータベースで、25のデータベース、約140万件のデータを収録しています。

上記のデータベースの他にも多くのコンテンツがあり、使いこなせれば学術情報収集の大きな手助けになることでしょう。図書館ホームページからアクセスできますので、是非一度利用してみてください。

(機械化推進委員会委員長 宮杉 浩)